

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ自民党
豊橋市議団
個人版

New

<http://itotokuya.net/>

伊藤 とくや

Spring, 2020, vol.52

本市における新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ対策等への認識と対応について

第52号 ごあいさつ

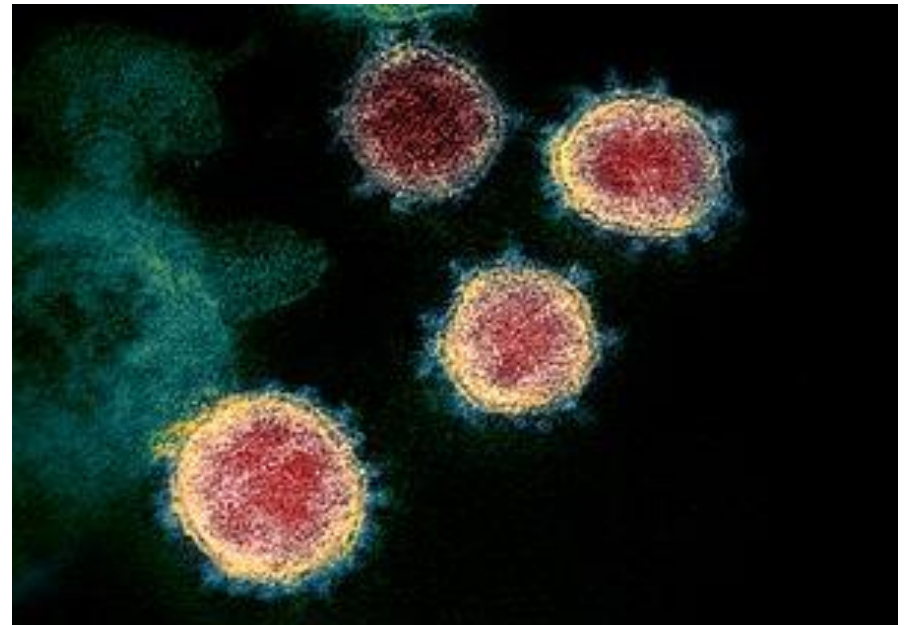
52号は3月9日（月）豊橋市議会における伊藤とくやの一般質問のテーマのひとつである『本市における新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ対策等への認識と対応について』特集号です。

質問準備を始めたのは1月末で、まだ武漢での新型コロナウイルス禍が我が国に及ぶことは少ないと思われていた時期でした。今思えば、アツという間に深刻の様相へと変化した世界がうそのようです。

質問の構成は当初から変わらぬもので、保健所、教育、産業、文化・スポーツの観点から質問すすめました。

今回は感染初期にすべきことを質問しましたが、今後は更なるウイルス対策への取り組み、大型補正予算はじめ真の経済対策が求められます。

質問当初、行政各位は楽観的であり、時に危機感を募るよう叱咤したこともありましたが、今は一層の奮励努力を期待するところです。



「新型コロナウイルス」SARS-CoV-2

質問の意図

■本質問は春節前から準備してきましたが、本年1月より感染拡大が止まない「新型コロナウイルス感染症対策」や、近時における「インフルエンザ対策」について、国の政策の是非について論じるものではなく、この危機に対して本市はどの様に最善を尽くしてきたのか、これからどう取り組んでいくのか、「本市におけるウイルスをはじめとする感染症対策に関する教養」と「常日頃からの備え」を問うものであることを前提に質問を始めます。

■教養とは、一人ひとりが、それぞれの生活を向上させるための学問、幅広い知識、創造的活力、心の豊かさ、物事に対する理解力をいいます。

■池上彰は、現代の教養は、すぐ役立たなくても社会に出て、やがて有効に働くもので、「自分がどう存在なのか」見つめていくことにあるとの著書「おとなの教養」で述べています。

■第4章は「人間と病気」であり、副題は「世界を震撼させたウイルスの正体」です。

■詳しくは述べませんが、その荒筋は、私たちは病をもたらすウイルスと共存することで進化を遂げてきた存在であり、私たちの体内の様々な遺伝子にはウイルス由来のものがあることや、細菌とウイルスとは違うこと、ウイルスは生き物と物質の間にある不思議な存在であること。

■有名なウイルス感染症に100年前の第一次世界大戦末期にかけて大流行した「スペイン風邪」を事例にあげ、わかりやすく解説しています。

■私たちを知ることは、病気をすること、病気をすることは、私たちを知ること、まさに病気が人類の歴史を大きく変えた事実には驚かされます。

■過去から直ちに行うべき「新型コロナウイルス感染症対策」が伺えます。

■ところで、昨年ラグビーワールドカップ時には、海外より多くの方がわが国へ訪れることで、季節外れの「インフルエンザ」が流行しました。今年の夏は、東京2020オリンピック・パラリンピックであり、真夏の日本へ、真冬の南半球からインフルエンザが持ち込まれる可能性等否定できません。

■また、昨秋よりアメリカ合衆国で大流行しているインフルエンザは、この状況があまり報道されていないことに違和感を覚えますが、（新型コロナウイルスとはけた違いの）感染者2600万人以上、死者1万4000人以上（数え方によれば3万人以上）の爆発的な状況です。

■2017年から2018年にかけての流行は、何と6万1000人もの死者が出ています。

■今まさに「コロナ」「インフルエンザ」はじめウイルスによる感染症について、「正しく理解し、正しく恐れること、そして、市としての率先垂範」は喫緊の課題であると考えます。

「備えよ 常に」はボーイスカウトのモットーですが、「いつなん時、いかなる場所で、いかなることが起こった場合でも善処ができるように、常々準備を怠ることなかれ」は、危機管理の基本です。

本市における新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ対策等への認識と対応について

国県からの通達を待たなくとも、ウイルス対策の基本である「咳、くしゃみエチケットといったマナー」「室内の適正な換気」「手洗いの励行、うがい、アルコールによる除菌」など、「人間と病気 ウイルスへの対応」について、本市における「備えよ 常に」の実践はいかなるものであるか、

（1）保健所として、新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ対策について、どのように取り組んできたのか、認識と対応について

（2）本市における各分野での新型コロナウイルス感染症対策、インフルエンザ対策等について

ア 学校での感染症に関する教育について

イ 公衆衛生上の緊急事態により影響を受ける諸産業の現状認識と対応について

ウ 観光産業での現状認識と取り組みについて

エ 文化・スポーツ分野での現状認識と取り組みについて

（１）保健所として、どの様に取り組んできたのか

- ご答弁では感染症は、既存と新興の感染症の2つに大別される。
- 新型コロナウイルス感染症は、新興であるため、感染拡大に最も注意すべき感染症である。
- 一方でインフルエンザは既存の感染症であり、様々な対応ができるので情報提供と予防が重要である、とのことでした。
- 2つのウイルス感染症の最も重要な予防策は「こまめな手洗いと咳エチケットの励行等」同じであり、まさに**小中学校の教科書の通り**です。
- しかし今回の新型コロナは重症化や死亡の事例もあることから、軽視することなく、「正しく情報を理解し、正しく恐れる」ことが必要です。
- また注意すべきは、無症状である程度持続的に病原体を保有している「キャリア」の存在であり、キャリアは18歳未満の若者が多く、無症状感染者も感染源となることです。
- ご答弁には今回の新型コロナは「一部パニックともいえる状況」とのことでしたが、調べたところ
- **「発熱した全ての人を遺伝子検査まで実施」するのは「制度の限界」**がある。
- 今回の措置は「**感染拡大の速度を可能な限り遅くする**」ためであることを**正しく伝えること**、とともに、**手洗いに関するポスター掲示、手指消毒用アルコールを設置、感染症の予防に欠かせない「体の抵抗力を高める」**ことの必要性など、「**感染症の予防**」を一人ひとりに伝えるべきではないでしょうか。

再質問

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の対策について、市全体の情報共有と対応の統括はどのように行っていくのか、また、市民への情報提供についての認識について

健康部長

◆ 感染症対策は、公衆衛生上の重要施策。保健所が全体を統括し、流行状況や感染症の特性等、医学的な見地を踏まえた上で、関係部署との情報共有と連携を図り、市長をトップに市全体での情報共有と対応を進めます。

まとめ

- 今回の新型コロナウイルス感染症は、感染症への意識の高まりから、季節性インフルエンザの発生件数を抑制しました。
- 見様によっては、私たちの感染症への備えは充分でなかったという事です。
- 今後、私たちが心掛けなければならないのは、「**新型インフルエンザの発生に備えて**」一人ひとりができる**対策を知っておく**であると思います。
- 新型インフルエンザは、毎年流行を繰り返す季節性のインフルエンザとは大きく異なり、新型のインフルエンザウイルスによって、およそ10年から40年の周期で発生しています。
- ほとんどの人が新型のウイルスに対する免疫をもっていないため、パンデミックとなり、その際はおそらく今回の新型コロナと比較にならないほど、重症になる人が増える、日常生活や経済活動に支障をきたしたりするなど、社会にも大変深刻な影響をもたらすおそれがあると言われています。
- 幸いにもアメリカや中国などは異なり日本は国民皆保険制度が機能していますが、今回の新型コロナウイルス問題は、グローバル社会の深刻な「無理・課題・リスク」はじめ、私たちの弱点を確認することに繋がりました。

「新型コロナウイルス感染症を踏まえて、本市の季節性インフルエンザ、パンデミックも含めた新型インフルエンザなど感染症への備え」については、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてからとしますが、感染症対策の基本は個人としては同じであり、今回の危機を乗り越え、更に大きな危機への準備を期待してこの問題については終わることといたします。

（２）各分野での対策等について 学校での感染症教育について

- 2つのウイルス感染症の最も重要な予防策は「こまめな手洗いと咳エチケットの励行等」同じであり、まさに**小中学校の教科書の通り**です。
 - ご答弁では
 - 子どもが感染症の原因を知り、予防に努めることは基礎的な素養の一つ。
 - **教科保健のみにとどまらず、学級での保健指導や他教科・道徳等横断的な指導も視野に入れる**とのことでしたが
 - **100年前のスペイン風邪から、人と病気について学ぶ。**
 - **コロンブスの新大陸上陸後など世界史から幾度も起きたパンデミックを学ぶ。**
 - **カミュの小説「ペスト」から、不条理な社会を学ぶ。**
- など、**教師の力量を大いに期待したい**ところです。

2 問目 今回の突然の全国一斉臨時休業の要請を受け、子どもたちの感染症への意識をどう高めていくか伺う。

教育長

今回、突然の全国一斉臨時休業の要請により、**子どもたちにとって大切な学年末の学びの機会が失われたことは誠に遺憾**です。

しかし、未来を担う**子どもたちを守る**という点においては、**やむを得ない判断**であったと受け止めています。

子どもたちには、身近に迫る感染症を自分事として重く受け止め、感染から自分の身を守るために外出を控え、学校で学んだ感染経路等の知識を基に手洗いや咳エチケットを日々実践する。このような実体験が、自分の健康や安全は自分で守らなければならないという意識につながり、ひいては自分の行動が家族や身近な人を守ることに役立つことに気づいてくれることを願っています。

まとめ

- 教育長の心中について理解することが出来ました。今回の学校の休校は全国一律に要請されましたが、子どもたちの学ぶ権利の侵害でもあります。
- しかし、「**止むを得ない判断**」は、新型コロナの特性です。
- 今回の新型コロナは今までのところ若者の重症化は少ないようですが、無症状で病原体を保有する「キャリア」が若者に多いのではないかとされています。
- 学校休業と共に、子どもたちには、「**感染症の予防**」について、年配の方や持病をお持ちの方への感染防止への配慮(対応)が求められます。
- 心配されるのは学校が休業となった際、子どもたちそれぞれの家庭や、置かれた状況での違いです。身体共に健全な状態で新学期へ臨むことを切望します。
- 苦しい中にも**勇気！**思い直した心の中に新しい知恵！
- 「**正しく情報を理解し、正しく恐れる**」ことが必要とされる今だからこそ、得難い**体得の機会**と言えます。
- 今回の突然の全国一斉臨時休業の要請を受け、子どもたちの感染症への意識はどの様に高まったか、教師の力量と共に子ども達に期待するとともに、**感染症対策は一時的なもので、いつかは終わる**。まずは子どもたちの健康を第一に願ひ、教育長の出口戦略に期待して今回の質問は終わることといたします。

伊藤とくやの視点

『公衆衛生上の緊急事態により影響を受ける諸産業への今後の対応について』『観光産業復興のための出口戦略として、今後の対応について』など、質問時より更に状況の変化は著しく、今回のTIMESへの記載はしないこととしました。

豊橋市役所ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する情報」には、「市内での発生状況」「学校・施設・イベント」「個人向けへの支援」「事業者向けへの支援」が解りやすく示されています。**最新情報は是非こちらをご覧ください。**

あとがき

- 今まさに新型コロナウイルス禍の渦中にあります。
 - しかし、終わらない感染症はありません。ですが、世界的大流行を鑑みると出口までの道のりは遠く感じます。
 - 教育長との質疑応答の中で、アルベール・カミュの「ペスト」を教材に学びをすべきではと、本会議にて述べました。
 - それは正に現在の社会に通じるものがあります。
- ・・・後手に回り続ける行政の対応、人々の相互不信、愛する人との過酷な別離、精神も肉体も牢獄に閉じ込められたような状況の中で、それに照らし出されるように浮かび上がってくる人間の尊厳・・・
- 登場人物の対話が私達に問いかけます。
 - **「ペストと戦う唯一の方法は、誠実さです」「私の場合は、自分の仕事を果たすことだと思っています」**
 - 対立があった時、それを対立のままで終わらせず、対立の一步先にありうる新たな状況へと進めるものが対話です。
- 👉 **新型コロナウイルス禍への、出口戦略の第一歩は自己対話から。準備を進める時は今、・・・対話を広げて・・・**

市政報告会のお知らせ

新型コロナウイルス禍が治まった後、必ず市政報告会を開催します。

その際は是非お越しください！

発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-70
FAX : 0532-53-4557
☎ : 090-3855-9696